



東日本大震災

(2011. 6.28 発行)

全難聴対策本部ニュース 第2号

【発行責任者】東北地方太平洋沖地震全難聴対策本部長 高岡 正

〒162-0066 東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1階

TEL:03-3225-5600 FAX:03-3354-0046 E-mail:zennancho@zennancho.or.jp

全難聴総会前日の5月28日、戸山サンライズ（新宿）で全難聴対策本部拡大会議が開催されました。震災後初めて被災地協会の代表者が集まり、情報交換しました。

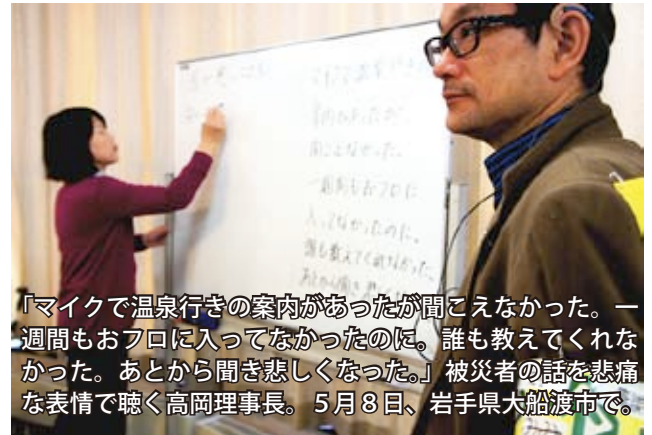
■高岡理事長あいさつ・経過報告

全難聴は3月11日の地震発生時、たまたま高木理事が事務所にいたので、災害対策メール発信を開始。15日からは対策本部ブログを立ち上げ、状況を外部に見えるよう発信しています。

被災地協会で、ほぼ全員安否が確認されました。残念ながら宮城は元会員が一人亡くなったと報告がありました。

その他に警察署の報告で、補聴器をつけて亡くなった身元不明の遺体が4体あったことがわかりました。それ以外に被災した難聴者が数十人はいると推察されます。

義援金は1,000万円以上集まっています。他にも全国の各協会から筆談ボードや「要約筆記」のロゴ入りジャンパー等が送られ、宮城・岩手・福島各協会にお渡ししました。補聴器販売店協会、工業会等の取り組みで補聴器用空気電池が多数集まり、全難聴でも集めて被災地に送りました。補聴器の無



「マイクで温泉行きの案内があったが聞こえなかった。一週間もおフロに入ってなかったのに、誰も教えてくれなかった。あとから聞き悲しくなった。」被災者の話を悲痛な表情で聴く高岡理事長。5月8日、岩手県大船渡市で。

償提供もありました。これらの浄財や提供品に心より感謝申し上げます。

今回の震災は、規模、時間、経過とも、過去の災害とは比べられません。被災状況も違います。広範囲に渡る津波被害の他、福島では原発事故、放射能の影響などもあります。

対策本部の今後の活動では、次の2つの柱が重要になると考えています。

1つは社会のインフラ整備。テレビの字幕放送や電話等の通信手段のバリアフリー化。

テレビの緊急放送に字幕を付ける要望や、東京電力の計画停電の問い合わせ先としてFAX番号も公開するよう要望しています。障がい者制度改革推進会議でも支援の拡大に取り組んでいます。

もうひとつは、被災地協会、難聴者への支

津波で流された車や漁船が道路脇に並んでいる。
5月8日（日）、岩手県大船渡市で。



援です。対策本部で被災地協会支援活動を進める中でわかったのは、各協会の皆様は被災しながらの生活に困っているのに加え、難聴のために周りの方とのコミに困難を抱えていることです。

自分の体験について話す機会がないのです。話を聞くことも重要です。5月8日、大船渡のきこえの会で集まって話したとき、女性はつらい体験を語り、皆涙声でした。

いつも使う集会所が物資集積所になったり、情報保障の手配が困難なことから、なかなか被災地の難聴者同士で集まって話し、たまった気持ちを出せる機会がないのです。心のケアが重要です。

このため相談支援も大事になります。公的支援に結びつける考え方が重要です。

政府は手話通訳、要約筆記者は派遣すると言っています。集団での話には要約筆記が必要です。地域自治体に派遣制度がなくても、国と県の支援制度で派遣するようにしたい。そのための仕組みがあるのです。ろうあ団体は制度を活用して手話通訳を派遣しています。この制度活用の取り組みを、要約筆記の公的派遣につなげていきたいです。

皆さんの報告やご意見を聞いて、支援の取り組みを成功させたいと思っています。

■各地の取り組み状況報告

1) 福島県は6月5日(日)に年次総会を開催。会員への連絡が困難でしたが、全会員安否確認できました。地震・津波に加え、原発事故の影響を大きく受けています。対策本部の第二次支援として3名が参りました。

2) 岩手県は4月3日、5月7～8日に続き、6月11～12日に全難聴から被災現地入りし、特に沿岸部会員への支援活動をしました。心のケアや、互いに話し合える場が特に必要であることから、交流会「憩いの広場」の開催協力、現地の認定補聴器技能者の支援も含めたサポート活動を展開しています。

3) 宮城県協会では発災当初から素早く会員への被災の状況や要望などアンケート調査を実施しています。4月2日みやぎ・せんだい協会対策本部を立ち上げ、協会対策本部立ち上げ後はアンケート集計結果に基づき、支援隊を組織しきめ細かな支援・サポート活動を展開中。

4) 5月28日拡大対策本部会議では、今後の義援金配分のため、外部有識者を含む義援金配分委員会を設置し、被災地協会と被災地会員への配分を検討します。また日本財団に助成金申請をして、被災地での耳マークを活用した難聴者支援を進めることとしています。

■全難聴の義援金取り組み状況

全難聴では被災された中途失聴・難聴者、関係者支援活動のため「災害義援金」を募っています。6月24日現在17,107,806円です。引き続きご協力お願いいたします。

・送金先 郵便振替口座

00180-9-576172 (社)全難聴
※お願い 普通の振込用紙を使用の際は「通信欄」に“東北地震義援金”と明記下さい。

■全難聴災害対策本部ブログと中央本部 HP 東北地方太平洋沖地震全難聴対策本部ブログ

http://blog.goo.ne.jp/zennan_saigai
東日本大震災聴覚障害者救援中央本部
<http://www.jfd.or.jp/tohoku-eq2011/>

■このニュースは毎月上旬発行予定です■



5月6日(土)、岩手県大船渡市間こえの会のみなさんと。この日が被災以来はじめての集まり。補聴援助機器や要約筆記の用意がありました。